



令和3年度学校だより11月号

東の風光る

歴史と文教の城下町 たかなべ 高鍋町立高鍋東中学校

Municipal Takanahe East Junior High School

自立の精神に燃え、広く敬愛する心を持ち、たくましい創造力を発揮する生徒の育成



山粧う やまよそおう

春の山のさわやかさを山笑う、秋の山が紅葉するようすを山粧うといい、山が変化し生きてるように表現しています。

高鍋東中生も、日々の活動や体育大会等の行事を通して、変化し成長してきています。実りの秋、生徒一人一人が、心身ともにさらに成長することを期待しています。

体育大会の思い出

1年生

中学校での初めての体育大会は、小学校の運動会とやっぱり全然違うなと思いました。小学校では先生達が全て指示して行動したりしていたけど、中学校では自分達で考え、行動するんだなと思いました。団長、副団長が中心となり、それを見てリーダーも動き、団をまとめようという気持ちが多く伝わり、先輩方や、団長、副団長、リーダーのためにも二冠を取らせたいという気持ちが強くなりました。また、私たちの見えないところで動いてくれた先生達にも感謝でしかないと思いました。実行委員長、副委員長の先輩方も私たち後輩に素晴らしい姿を見せていただいて、とてもかっこいいなと思いました。来年は自分達にも後輩ができるので、自分達が1年生に経験した体育大会よりも上をいけるような体育大会にしようと思いました。

2年生

来年はリーダー、特に団長になって団の中心となって体育大会を盛り上げたいと思います。そう思ったのも「自分の思い通りにならないことは絶対にある」と気づかせてくれた今年の体育大会あってこそだし、リレーに出られなかった分、より協力性が求められる競技に出られたことは本当に良い経験をしたなと感じます。体育大会の練習が始まった当初は、初体験の競技が沢山あって皆戸惑っていたのが、本番の時には、あんなに楽しそうにできるというのは、本当に素晴らしいことだと思います。僕は今回こういった形の競技で良かったと思います。来年コロナが収束しているかも分からないし今年の形が引き継がれるか分かりませんが、友達が言っていたように「目に見えない何か」を得たことによって、これから更に素晴らしいものになることは間違いありません。先生が言っていた「負けたことから目を背けてはいけない」ということを胸に留め、これからどうすればいいのかを考え、今年のスローガンである「Makes us Smile～全員が笑顔になれる思い出の時間～」を創っていきたいです。

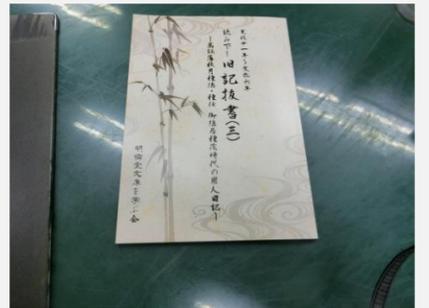
3年生

今年の体育大会では、いろいろなことを学びました。コロナで前のような体育大会をすることはできなかったけど、素晴らしい体育大会にできたと思います。まず協力するということを学びました。私は団装飾という仕事について、一人であんないい作品は作れなかったと思います。友達やいろいろな人と話し合っただけで色使いやデザインを考え、協力ってとても大事なんだと知りました。次にクラスの皆でダンスと演舞をしたことです。先生がいなくてもリーダーが踊りなどを全部覚えている姿に感動して、私も頑張ろうと思いました。副団長や団長がリーダーシップをとっていて、私も恥ずかしがらず全部覚えようとして友達などにもめっちゃ聞きました。そうしたら上達して、とてもいい演舞ができたと思います。この経験をもとに高校でも役立てていきたいです。

寄贈いただきました！

地域の方から消毒液置き台を2つ寄贈していただきました。ぜひ使っていただきたいと持ってこられました。町内の様々な施設にも寄贈されているようで104個目とのことでした。大変ありがとうございます！

明倫堂文庫を学ぶ会会長から毎年恒例のことですが、古文書の解釈本を1冊いただきました。生徒たちが少しでも高鍋の歴史に興味をもつように本校「ふるさと資料室」に置きたいと思います。大変ありがとうございます！



相手に伝える能力

先日の宮崎日日新聞「健康歳時記」の欄に健康アドバイザーの大西葉子さんが、次のようなことを書かれていました。相手に伝える能力

自分の気持ちを上手に伝えることはなかなか難しい。伝えたことの意味を理解されずに悩んでいる人も多いだろう。ジャーナリストの池上彰さんは、著書「伝える力」の中で、「『伝える力』に自身があってもなくても、最も大事なものは『聞く耳を持つ』ことです。そして、他者の意見に『謙虚であることです』と指摘する。何かを伝えたい時、内容はもちろん、タイミングや伝達方法も大切だ。まずは聞き手となって相手の状況を探り、その上で自分の意見を述べる。その意向が沿えていなかったとしても、相手の事情を踏まえた上で理解を求めるような伝え方をしていれば、少なくとも納得してもらえることは多い。お互いが耳を傾け合うことで落としどころは見つかるはずだ。これは、お互いに歩み寄るための「コミュニケーション能力」だ。家庭内でも社会でも国家間でも、すべてが思い通りにはならないのは当たり前だ。「コミュニケーション能力」を高めることによって、次第にお互いが納得できる関係を築いていけるのではないだろうか。

きっとこの記事は大人向けに書かれたものかもしれませんが。大人同士の気持ちの伝え方もなかなか難しいものです。しかし、中学生同士の状況は大人以上だと考えます。思春期とともに心身ともに不安定な時期、語彙力が多いとも限りません。

中学生のこの時期は、人間関係のトラブルが多くなります。しかし、そのことを経験し成長していくものだと思います。

だからこそ大人は子どもを見守り、学校と家庭がそれぞれの役割を果たし、連携することが重要だと思っています。



【後記】 体育大会の全生徒の感想文を読み感動し嬉しく思いました！一人一人にドラマがあり、苦労や涙の中で、互いに乗り越え支え、成長し、達成感のある体育大会となったようです！（校長）